

まちライブラリーブックフェスタ2017in関西

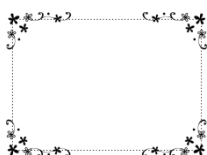


西成図書館プレゼンツ「おすすめ本^{エックス}X」展示リスト

展示期間 2017年5月2日～6月30日

今回の「おすすめ本X」では、過去の2つの図書展示で募集し、おすすめコメントを寄せていただいた本を集め、包装しました。

本は包装しているので、何の本かわかりません。上に貼りつけたおすすめコメントを



参考に、興味が湧いた本を借りていただく展示でした。

どんな本が入っているかは、開けてからの楽しみ。

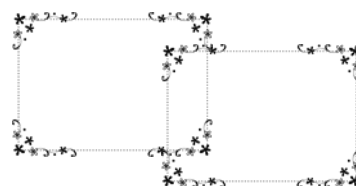
本にはコメントカードをはさみ、読まれた方のコメントも寄せていただきました。

皆様それぞれの本への思いが、新たな本との出会いにつながればと企画しました。

好評をいただき、期間中に、すべての本にご利用がありました。

おすすめコメントをご記入いただきました皆様、おすすめ本をご利用いただきました皆様に感謝いたします。

展示した本とコメントは、このリストの通りです。



気になるおすすめ本がございましたら、カウンターでお気軽にお申し付けください。



大阪市立西成図書館 <http://www.oml.city.osaka.lg.jp>

〒557-0041 西成区岸里1-1-50 電話06-6659-2346



●「この本いいね！」西成図書館読書会300回記念図書展 で集まった「あなたのおすすめの1冊」
(展示期間:平成27年5月1日～6月30日)

この図書展示では、西成図書館読書会の開催300回を記念して、これまでに取り上げたテキストから選んでコメント入りしおりをはさみ、図書展示をしました。あわせて「あなたのおすすめの1冊」も募集しました。

あなたのおすすめの1冊

【大人の本】

『生きる』(乙川 優三郎/著:文芸春秋, 2002. 1)

おすすめコメント:生きることのつらさとその意味がよく描けています。考え深い作品です。

『「いつものパン」があなたを殺す: みんな大好き!パン、パスタ、シリアル…の真実: 脳を一生、老化させない食事』

(デイビッド・パールマター/著; クリスティン・ロバーグ/著; 白澤 卓二/訳:三笠書房, 2015. 1)

おすすめコメント:10年に1度出会う本です。びっくりしました。生活を変える気になりました。

認知症になりたくなければこの本を読んでください。

『駅物語』(朱野 帰子/著:講談社, 2013. 7)

おすすめコメント:東京駅が舞台です。東京駅の鉄道に働く人達のそれぞれの想いが「東京駅」で人間模様が描かれていきます。

『仮想儀礼: The Seisen-Shinpo-Kai Case 上・下』(篠田 節子/著:新潮社, 2008. 12)

おすすめコメント:驚くべき作品です。深い内容であり、しかも面白かったです。

『神々の山嶺(いただき) 上・下』(夢枕 獏/著:集英社, 1997. 8)

おすすめコメント:人間が順応できる高度は人にもよるが、6000メートルをいくらか越えたあたりだろうと。その高度に長く滞在すると大量の脳細胞が死んでゆく。

羽生丈二は、「エベレスト南西壁冬期無酸素単独登頂」をやろうというのである。

8000メートル〇〇登頂だ。これだけの山岳小説は、もうおそらく出ないだろう。どうだ、まいったかと〇〇にある実にすごい本だ。

『空中ブランコ』(奥田 英朗/著:文芸春秋, 2004. 4)

おすすめコメント:笑えます。とにかく笑えます。面白すぎてあっというまに読み終わりました。

『櫛挽道守』（木内 昇/著：集英社，2013.12）

おすすめコメント:とても地味な小説だが、重苦しくない。最後がハッピーエンドなのがよい。

幕末、木曾の宿場町、主人公登瀬は、父のように櫛挽職人を目指す。当然、周りは反対。女の幸せは結婚という時代だ。でも登瀬はブレない。本物をつかむまでの長い長い旅。

『新源氏物語1-6』（田辺 聖子/著：新潮社，1980）

おすすめコメント:大変、面白く読んだ記憶があります。平易な文章でわかりやすかった。

『県庁おもてなし課』（有川 浩/著：角川書店，2011.3）

おすすめコメント:とても参考になる本です。こうすれば宣伝がうまく行くのかと。

『原発ジプシー：「原発=科学」の虚妄を剥ぐ体験ドキュメント』（堀江 邦夫/著：現代書館，1979.10）

おすすめコメント:1979年10月第一版発行の原発で働く下請け業者の生活を書いた

「原発ジプシー」を当時買って読んだ。平〇の原発を書いたものだが、これが人間の仕事だろうか。東電福島第一原発は、2011年3月11日巨大地震、大津波をうけたあと、もてあましているとしかみえない。大地震、火山噴火の不安が遠くない時期にあるかもしれぬ日本。「原発ジプシー」は、復刊しているはずである。

※2011年5月に、増補改訂版が刊行されました。

『紅茶スパイ：英国人プラントハンター中国をゆく』

（サラ・ローズ/著；築地 誠子/訳：原書房，2011.12）

おすすめコメント:紅茶はどうして世界に広まったのか。英国人のプラントハンターが茶葉を独占していた中国に潜入し、最高のチャノキの苗木と種を手に入れて、国外に持ち出す話。この苗木は、インドで栽培され、最高の紅茶になって世界に広まった。19世紀の東アジアの事情、プラントハンティングという事業（こっそり盗み出すのではなく、大々的に運び出している）がわかり、興味深い。英国人が弁髪姿に返送したら、中国人として通るというのも裏事情が伺えておもしろい。

『古都』（川端 康成/著：新潮社，1963）

おすすめコメント:美しい京都の四季。春の桜の名所や秋の紅葉の名所、伝統のある祇園祭や葵祭の様子が描かれていて、読むとまた京都に行きたくなります。双子の姉妹の物語です。

『坂の上の雲 1-6』（司馬 遼太郎/著：文芸春秋，1972）

おすすめコメント:腰に大小をたばさみ、北海道を二本のスネで歩き、どこの国にもない髷と独特の民族衣装、日本をもっとも軽蔑したのは朝鮮とか。産業、軍事、400年諸外国に遅れていた。秋山兄弟のすごさ、日本海海戦を指揮したのは？近代史の不勉強が頭にしみこんだ。

『裁かれた罪裁けなかった「ころ」：17歳の自閉症裁判』（佐藤 幹夫/著：岩波書店，2007. 7）

おすすめコメント:大阪府寝屋川市中央小学校における17才広汎性発達障害少年の殺人事件の裁判記録です。今、少年少女達の異常な犯罪が多発しています。私達の感性ではとうてい理解できないことですが、そのような「人」を作り出したのは、「社会」ではないだろうか。そし「社会」は私達ひとりひとりの「人」がつくるのではないだろうか。私達は、「理解する努力」が必要ではと思いました。

『三陸海岸大津波』（吉村 昭/著：文芸春秋，2004. 3）

おすすめコメント:よく調べて書かれています。2005年ごろに書かれていたのに、2011年に何か役立たなかったのが残念です。「これより下に家を建てるな」との碑も紹介されていたのです。彼の心配したとおりになりました。

注：初版は『海の壁：三陸沿岸大津波』（吉村 昭/著：中央公論社，1970）の題で、1970年に刊行されました。

『ジェノサイド』（高野和明/著：角川書店，2011. 3）

おすすめコメント:この本は「東京プリズン」を読んだ時、日本人として戦争責任を強く考えなければいけないと強く思い、世界の中の日本を考えさせられたその後に読み、その国のトップが何を考え、何をしようとしたか？フィクションとはいえあながちフィクションとは言えないあり得ることだとそら恐ろしい気持ちになりました。国家権力、国策の名の元に戦争は始まる。

『塩狩峠』（三浦 綾子/著：新潮社，1981）

おすすめコメント:おそらく読んだ方は、全員がびっくりすると思います。最後から読まないでください。

『青春の門 第1部～7部』改訂新版（五木 寛之/著：講談社，1989. 12）

おすすめコメント:長編小説ですが、一生懸命読んだことを思い出します。

『体内時計のふしぎ』（明石 真/著：光文社，2013. 12）

おすすめコメント:理系の本だが、とてもわかりやすく書いてある。「体内時計は全身のひとつひとつの細胞に存在している」「太陽の動きに合わせて活動する」よく眠れないのなぜか？よく眠るにはどうすればよいか？よくある疑問に科学の立場から答えてくれる。

『だから、あなたも生きぬいて』（西成図書館読書会第188回課題図書）（大平 光代/著：講談社，2000. 2）

おすすめコメント:とにかくすごい人生です。こんな生き方もあるのかと驚きました。勇気をわかせてくれる本です。

おすすめコメント:22歳までに、これ程壮絶な人生を送り、それからの立ち直りのエネルギーのすごさに拍手、涙の連続でした。

『男子の本懐』（城山 三郎/著：新潮社，2002.1）

おすすめコメント:27代総理大臣濱口雄幸が暗殺された。東京駅中央口に印があるそうです。
濱口雄幸首相のような方が、現在の日本に必要な気がします。

『つばき』（山本 一カ/著：光文社，2014.7）

おすすめコメント:深川永代寺に料理店を構えた女つばきが、一人前の経営者、経済人になっていく物語。
20代後半の若いつばきに、大店の主人たちが貴重なエッセンスを教えていく。一つの店の活動が社会に及ぼす効果。松平定信の寛政の改革が経済に及ぼした影響。それに対する商人の姿勢。題名と違って、かなり骨太な小説だった。

『謎解きはディナーのあとで』（東川 篤哉/著：小学館，2010.9）

おすすめコメント:かげやまとれいこのやりとりをみてると思わず笑えた。

『必死のパッチ』（西成図書館読書会第266回課題図書）（桂 雀々/著：幻冬舎，2008.10）

おすすめコメント:実にすごい話だった。考えさせられたし、面白かった。

おすすめコメント:一気に読んでしまいました。親は無くとも子は育つ。雀々さんの前向きな性格と落語という一生の仕事を見つけられたことが、本当に良かったと思います。

『白夜行』（東野 圭吾/著：集英社，1999.8）

おすすめコメント:たぶん、東野圭吾の最高作ではないかと思います。単なるミステリーを越えた本格的な作品です。続きの『幻夜』と共に、後々に残る作品と思います。

『氷点 [正]』（三浦 綾子/著：朝日新聞社，1978）

おすすめコメント:駄菓子屋のおばさんが書いて、いきなり代ベストセラーになった。すばらしい本です。
あまりにも面白くて、しかも深い作品です。

『方丈記』（[鴨 長明/著]；築瀬 一雄/訳注：角川書店，1979）

おすすめコメント:ゆく河の流水は絶えずしてしかももとの水にあらず。2部授業、午前午後のつめつめの〇〇の時もあった小学校も閉校となる淋しさを眼のあたりにして、この時代と同じような無常の有様が絶妙な筆に踊る鴨長明の手記である方丈記に心打つ。地震、火事、山崩れ、飢え。すさまじい。

『暴走老人』（藤原 智美 /著：文藝春秋，2007.8）

おすすめコメント:実におもしろかった。大笑いの連続。楽しかったです。

おすすめコメント:感情爆発は心の悲鳴だったのですね。もうスローの時代に戻れないのでしょうか。

『坊主のぼやき』（川西 蘭/著：新潮社，2008.6）

おすすめコメント:浄土真宗本願寺派の宗徒ですが、もとは小説を書いていた著者が、お坊さんになるまで

の経過を前書きにして、仏事について、修行の内容や作法、決まりごと等をわかりやすく、おもしろく書いていて楽しく読みながら参考になったことがたくさんありました。

『まほろ駅前多田便利軒』（三浦 しをん/著：文藝春秋，2006.3）

おすすめコメント：「まほろ市」で便利屋を営む多田と元同級生の行夫が主人公。いろんな仕事が依頼され、二人はそれに立ち向かう。軽くて、いいかげんで、おかしくて、でもちょっとほろりと来る物語。映画にするなら多田は瑛太、行夫は松田龍平と思いながら読んだ。映画化されたら、まさにその二人。でも小説にあった妙味が映画にはなくて残念でした。

おすすめコメント：私は山田ゆぎさんと思うマンガ家の「まほろ駅前」が最初の出会いです。その後TVドラマ、映画も見てやっと本書にたどり着きました。マンガの中の多田と行夫は本書で現わされたイメージを全く損なうことなく書かれていたのだなと想いました。多田には影がありますので…TV、映画の瑛太さんは少し違和感があります。

『ミツバチ大量死は警告する』（岡田 幹治/著：集英社，2013.12）

おすすめコメント：最近、中国のPM2.5はともかく、公害についての話題が少ないように思う。でも、恐るべきことが起きていると警告する本。2009年夏以来、ニホンミツバチが大量死それは、新タイプの農薬が散布されるようになった時期と重なる。この薬害はミツバチのみならず、人間のガンとの因果関係もありそう。日本の基準は、EUに比べて甘い。安全な国日本を見直してみるきっかけになる。

『ミーナの行進』（小川 洋子/著：中央公論新社，2006.4）

おすすめコメント：芦屋を舞台とするほのぼのとした少女の話。やがては、ハリーポッターの翻訳をする人に成長する話です。

『無理』（奥田 英朗/著：文藝春秋，2009.9）

おすすめコメント：今の社会状況がよく書かれています。深い本です。

『屋根屋』（村田 喜代子/著：講談社，2014.4）

おすすめコメント：昨年、大修理が終わった平等院の鳳凰堂。その修理中、前回の昭和修理にたずさわった職人の落書が瓦の下の板から見つかった。こんな落書きはあちこちの寺社建築にあるらしい。それを主人公の女性と屋根屋が夢の中で訪れる物語。時空を超えて飛ぶ。映画「テルマエロマエ」風。現実と非現実が交錯しておもしろい。主人公が中年の男女というのもおもしろい。

『友情』（武者小路 実篤/著）

おすすめコメント：高校生の頃、56年前に読んだ本です。

【子ども・若い人向けの本】

『あたしんち = Atashin'chi 1-21』（けら えいこ/著：KADOKAWA）

おすすめコメント:登場人物の会話がおもしろいです。読んでいっていると楽しくなります。
だから、この本を選びました。

『月の影影の海 上・下』（小野 不由美/[著]：講談社，1992.6）

おすすめコメント:主人公の女子高生が異世界へ飛ばされ、苦労しますが、クラスメイトとうわべだけの付き合いしかしてこなかったことを悔やむなど、思春期の心の葛藤も良く描かれていて、お勧めです。

『天国の犬ものがたり：ずっと一緒』

（堀田 敦子/原作；藤咲 あゆな/著；環方 このみ/イラスト：小学館，2013.9）

『天国の犬ものがたり：わすれないで』

（堀田 敦子/原作；藤咲 あゆな/著；環方 このみ/イラスト：小学館，2014.3）

おすすめコメント:この『天国の犬ものがたり』は、まだ途中しか読んでないのですが、すごくいい話で、しかもノン・フィクションで！わたしはすごく好きです！いままでの本の中でも（わたしがよんだ）すごく感動しました。まだまだ、よみたいし、何回でもよみたいぐらいです！「-わすれないで-」と「-ずっと一緒-」があるんですけど、これまた、表紙がかわいくて、はまっちゃいました！まだ、ここに書ききれないほどいい本なんです。
ほんとにいいんです！

『マザー・テレサ：ほんとうの愛』（綾野 まさる/作；日高 康志/画：ハート出版，1998.1）

おすすめコメント:マザーテレサと言う人がいて、看病してくれたりする人で、子どもにも大人にもやさしい人です。いい話だと思います。

『モモ』（ミヒヤエル・エンデ/作；大島 かおり/訳：岩波書店，1986）

おすすめコメント:時間がぬすまれる。時間が足りない。働いてばかりで、それでいいの。自由な時間が消えていくので良いのとモモは問いかけます。名作です。



●まちライブラリーブックフェスタ2016in関西

「あの時、君は何を読んでいた？ベストセラーでふりかえる本」展で集まった

感想や思い出、おすすめ本の紹介コメント

(展示期間:平成28年5月1日～6月30日)

ベストセラー本を1950年から2013年まで集めて展示しました。その際に、その本を読んだ感想とまつわる思い出、おすすめ本の募集もあわせて行いました。

感想コメント(ベストセラー本)

『海賊とよばれた男 上・下』(百田 尚樹/著:講談社, 2012.7)

思い出・感想コメント:終戦を5才で迎えました。太平洋の資源の争奪が第二次世界大戦の無謀な拡大と言うことは知っていたが、関心は軍がどうして戦争を早く終結しなかったのかと言う歴史の検証に軸足を置いていた様に思う。資源の少ない国の戦後の復興も又苦難の歴史であるとする。今世界は、宣戦布告の無い戦争状態に入りつつあるのだろうか?グローバルな時代に止まって考える余裕を国も国民も持てるだろうか。

『風と共に去りぬ1-5』(マーガレット・ミッチェル/著;鴻巣 友季子/訳:新潮社, 2015.4)

思い出・感想コメント:映画を観て、日本が必死で戦争をしていた時にこんなスケールの大きな映画を作っていたのだ、これでは戦争に負けるはずだと思いました。アシュレの死によって生き方の選択が変わったスカーレット、戦争の中で変わっていくものが多くの教訓になった。次に1986年(昭和61年)『タラへの道-マーガレット・ミッチェルの生涯-』を発売と同時に買いました。当時2000円。サラリーマンの妻には大金でした。

『かもめのジョナサン』完成版

(リチャード・バック/[著];五木 寛之/創訳;ラッセル・マンソン/写真:新潮社, 2014.6)

思い出・感想コメント:似た作品に漫画『ガンダム』と言う作品があると思います。今の時代でいうと中丸薫さんの作品が近い作品といえると思います。作品出品時代は、インスピレーションや魂の覚醒など認められなかった時代で実に世界でも注目された作品です。

『県庁おもてなし課』(有川 浩/著:角川書店, 2011.3)

思い出・感想コメント:高知県を活性化する話で、とても面白かったです。

『少年H 上・下』（妹尾 河童/著：講談社，1997.1）

思い出・感想コメント：著者、妹尾 河童氏の少年時代の戦争体験をもとに書かれた自伝的小説で、感動しました。これは反戦小説だと思いました。戦争を知らない若い方に読んでもらいたいです。

『大地の子 上・中・下』（山崎 豊子/著：文芸春秋，1991.1）

思い出・感想コメント：1945年ソ連国境に近い日本開拓村で、7歳になった松本勝男は、ソ連が国境をせめてきた非常サイレンを聴き、心中の彷徨がはじまった。中国残留孤児陸一心として死となりあわせの生活がはじまる。日中俳優による映画化もすばらしかった。

『だから、あなたも生きぬいて』（大平 光代/著：講談社，2000.2）

思い出・感想コメント：もと極道の妻が、そこからぬけ出す過程の努力ものがたりです。強く生きぬかれた著者ならではの説得力で、読者の心をとらえます。努力の結果、彼女は弁護士さんになりました。

思い出・感想コメント：すごい人だと思いました。よくぞ、はい上がって弁護士になられたと思いました。

『山岡荘八全集 1 徳川家康1』

（山岡 荘八/著；桑田 忠親/監修；村上 元三/監修；尾崎 秀樹/監修：講談社，1981.2）

思い出・感想コメント：壮大な歴史ロマン小説です。とにかく詳しく臨場感あふれる戦国時代が描かれています。織田信長のことも豊臣秀吉のこともよくわかり勉強になりました。

『人間の条件 上・下』（五味川 純平/著：三一書房，1967）

思い出・感想コメント：新書版6巻、作者のサイン入りの本は宝物です。テレビで加藤剛と美千子が誰だったかは忘れていますが。（映画は仲代達也と新珠三千代）の感想文に応募して入選したのです。戦争の中で人間性を貫く事が如何に難しいか、特に梶が饅頭ひとつのために雪に埋もれて死んで行く不条理、人間とは何なのか、自分なりの答えが見つかるまで十年かかりました。

『ノルウェイの森 上・下』（村上 春樹/著：講談社，1987.9）

思い出・感想コメント：この作品が映画化されたとき、もう一度読んでみたいと思い、赤と緑の表紙を本棚で探したが見つけることができなかった。当時通っていた韓国語学院に行く途中、紀伊国屋で文庫本を2冊買って持って行った。すると授業を担当してくれた来日3年目の若い韓国女性がその日を最後に国に帰るとのこと。高校時代から日本語を学んでいたという彼女に買ったばかりの村上春樹をプレゼントした。日本語の勉強に役立っていればいいと思う。再読は図書館の本を借りて。（速水）

『八甲田山死の彷徨』（新田 次郎/[著]：新潮社，1980）

思い出・感想コメント：夫が新田次郎の愛読者で多くの著作を遺している。時々借りて読んでいた。とにかく迫力があって面白かった。六十歳を過ぎてから近代とか明治を考えるようになった。リーダーの資質もあるだろうが、それ以上に国が求めるものに忠実であった軍隊という組織、それから百年、集团的自衛権、海外派兵、その中での陸自訓練死が報道される私達は凶暴と狂気を見続けなければいけない。

『華岡青洲の妻』（有吉 佐和子/著：新潮社，2004. 8）

思い出・感想コメント:最後の妹の言葉がすごいです。なぜ、彼女が結婚しなかったのかが、作者の言いたかったことなのではないでしょうか。

『必至のパッチ』（桂 雀々/著：幻冬舎，2008. 10）

思い出・感想コメント:よくぞ生き抜いたと思いました。すばらしいの一言です。

『氷点【正】・続』（三浦 綾子/著：朝日新聞社，1978）

思い出・感想コメント:久しぶりに読み返してみて、やっぱり昭和を代表する本だと思った。すでに50年前の本ですが、すばらしいと思いました。

『複合汚染 上・下』（有吉 佐和子/[著]：新潮社，1980）

思い出・感想コメント:ベストセラーになった時、PTAの広報で読書会を開き、テープ起こしから紙面構成等一面を飾った。化学肥料や汚染土壌それが蓄積される人体への影響等、若い主婦には衝撃でした。結論は私達の家計では高い無農薬の野菜や無添加の食品は買えないよねという事でした。それから40年、カネミ油症、水俣の水銀汚染と公害を経験し、無農薬の高い食材を求める、買える時代になった。

紹介コメント(おすすめ本)

『あかね空』（山本 一力/著：文芸春秋，2001. 10）

紹介コメント:人情を描かせたら、本当にうまい作家だと思う。これは本当の代表作だと思う。

〈内容紹介〉

希望を胸に上方から江戸へ下った豆腐職人の永吉。味覚の違いに悩みながらも恋女房に助けられ表通りに店を構えるが…。永吉一家二代の有為転変に、かけがえのない家族の絆を描く、書き下ろし時代長篇。

『海底軍艦』（押川 春浪/著：桃源社，1976）

紹介コメント:これから夏本番、いまわしい第二次世界大思い出ブーム。NHKSP番組で最近になって、番組の放送のお許しが出た潜水艦イ-400だが、予言の書なのだろうか。1度生きている間に目を通してみたいものだ。（ペンネーム ヒロハル）

『神去なあなあ日常』（三浦 しをん/著：徳間書店，2009. 5）

紹介コメント:ほのぼのとした山村で若者が成長する話で、とても面白かったです。

『自己流園芸ベランダ派』（いとう せいこう/著：毎日新聞社，2006. 9）

紹介コメント:実に面白い。ユーモアいっぱい笑える。

＜内容紹介＞

大切な夜に咲いた月下美人、あんずの人工授粉…。都会の小さなベランダで数々の奇跡が起こる。だからベランダはやめられない! 『朝日新聞』連載を単行本化。園芸家・柳生真吾氏、詩人・伊藤比呂美氏との対談も収録。

『想像ラジオ』（いとう せいこう/著：河出書房新社，2013.3）

紹介コメント：東北震災で死んだ人の無念の思いをみごとに描いていると感心しました。

『太宰治の辞書』（北村 薫/著：新潮社，2015.3）

紹介コメント：太宰治や芥川的一面が書かれていて、とても面白かったです。

太宰治は、人の作品のパクリの名人だったのかと驚きました。

『鳥たち』（よしもと ばなな/著：集英社，2014.10）

紹介コメント：いつもの破壊された一家が再生する物語でした。あたたかい話です。

『光圀伝』（冲方 丁/著：角川書店，2012.8）

紹介コメント：有名な「これが見えぬか」というセリフが出てくるのですが、現実とは随分と違うと思いました。

『豪華特急トワイライト殺人事件』（西村 京太郎/著：新潮社，1992.1）

紹介コメント：西村京太郎の殺人事件ものの本をもっと展示してほしいです。

テレビで見ました。事件ものの本が一番いいです。

【子ども・若い人向けの本】

『ハリー・ポッターと死の秘宝 上・下』（J.K. ローリング/作；松岡 佑子/訳：静山社，2008.7）

紹介コメント：すごくはくりよくがあってドキドキわくわくしました。

『名探偵コナン Volume1』（以下続刊）（青山 剛昌/著：小学館，1994）

紹介コメント：コナンはなぞをとくしんそうが面白い。ぜひよんでね。（K.Sより）

おおさかしりつにしなりとしょうかん
大阪市立西成図書館

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp>

〒557-0041 西成区岸里 1-1-50 電話 06-6659-2346

